

## 様式第1号

## 会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第1回 所沢市地域公共交通協議会
開 催 日 時	令和4年5月27日(金) 午前10時から午前11時30分まで
開 催 場 所	所沢市こどもと福祉の未来館 1階 多目的室1・2号
出 席 者 の 氏 名	武熊 雅郎、本多 美佐保、柴田 志津子、大石 京、 玉津島 一誠、岩澤 貴顕(代理：佐藤氏)、 榎本 聡(代理：浜口氏)、山内 智矢(代理：関根氏)、関根 肇、 加藤 和伸、尾崎 晴男、細野 桂一、高橋 優、西野 利彦、 秋山 泰輝、肥沼 宏至、鈴木 哲也、鈴木 明彦、埜澤 好美、 小河 憲司、黛 浩一郎
欠 席 者 の 氏 名	横溝 哲夫、鈴木 由紀子、藤田 貢
議 題	(1) 所沢市地域公共交通計画の策定について (2) ところワゴンの進捗状況について (3) その他
会 議 資 料	・ 次第 ・ 資料1-1 所沢市地域公共交通計画の策定について ・ 資料1-2 公共交通に関する課題の整理 ・ 資料2-1 ところワゴンの進捗状況について ・ 資料2-2 【三ヶ島地区】人数及び収入 ・ 資料2-3 【〃】停留所別利用者数(若狭・三ヶ島) ・ 資料2-4 【〃】停留所別利用者数(林・糞谷) ・ 資料2-5 【〃】便別利用者数 ・ 資料2-6 【〃】曜日別利用者数 ・ 資料2-7 【〃】料金別利用者数 ・ 資料2-8 【〃】ルート変更予定図 ・ 資料2-9 【富岡地区】運行計画案
担 当 部 課 名	街づくり計画部：畑中次長、佐藤参事 都市計画課：高野課長、板垣室長、小暮副主幹、盛清主査、 秋葉主査、松田主任、片山主事 【事務局】：街づくり計画部 都市計画課 電話 04-2998-9192

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p><b>1 開会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議成立の報告（出席者 21 名）</li> </ul> <p><b>2 会長挨拶</b></p> <p>（以下、尾崎会長が議長となり進行）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議は公開</li> <li>・傍聴者：7 人</li> </ul> <p><b>3 議事</b></p> <p>（1）所沢市地域公共交通計画の策定について            ※資料 1-1 及び 1-2 をもとに説明。</p> <p>ところワゴン三ヶ島ルートについて、令和3年4月から運行を開始し1年が経つが、この間の実績を検証し、見直しを行うことは、利用者を増やすためには重要なことだと考える。また、利用状況調査は、ワゴン利用者に対し実施しているものであって、自治会や非利用者などの地域からの意見も踏まえた上で検討を行うとより良いと思われる。</p> <p>利用状況調査において「外出の回数が増えた」という回答が一定数あることは、導入の成果ではないかと思われる。また、「毎時同時刻にワゴンが来ることへの安心感」や「乗務員の丁寧な対応」などの意見もあり、導入して良かったと感じる。</p>
事務局	<p>ところワゴンの運行については、非利用者も含め地域との意見交換を行いながら進めているところで、好評いただいた点に関しては、ほかの地域においても活かしていきたい。</p>
会長	<p>アンケートの分析においては、クロス集計などの手法も活用することや地域との協議も重要であると考え。ところワゴン導入にあたり、外出の回数が増えたのは良いことだが、一方でバスやタクシーに乗車しなくなったという回答は懸念である。</p>

<p>委員</p>	<p>民間路線バスでは、採算面が極めて厳しい状況のエリアがある。このような中で、今後、例えばバスの増便などの何かを「つくる」ことは良いが一方で「維持」が負担となる。そのため運賃収入が減ると様々な支障が生じるので、その点は御理解いただきたい。</p> <p>地域公共交通計画の策定の理念について、市全体での取組例として、スクールバス、福祉車両等の民間輸送の資源の活用検討とあるが、実施主体が明確でない点が気になる。様々な資源を活用したところで、その担い手がいなくなることや、地域の方々を乗せることで、本来、送迎しなければならない方が乗車することができないなどの事態が発生する懸念がある。そのため、誰がどのように実施するかという内容も計画に盛り込むと良い。</p>
<p>委員</p>	<p>タクシー業界の現状について報告させていただくと、全国で赤字が多く、事業継続が難しい状況である。これは、地方に行けば行くほどより厳しい。このような中で、国の認可のもと運賃設定しているため、事業継続が難しいからといって、経営判断で運賃を上げることはできない。また、利用者が減ると結果的に地域の移動手段にも影響が出る。そうすると行政負担で賄わざるを得なくなる。行政主体の公共交通を実施しすぎても民間事業者がいなくなり、結果として地域の衰退につながりかねないため、慎重に検討を行うことが重要である。短期的に便利であったとしても、長期的な視点に立つと莫大な市税の投入が必要になるなどの問題も生じるため、実際に運行する事前の判断が重要となる。</p>
<p>会長</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡がり、ここ2年間、公共交通機関の利用は下がっているところであるが、ところワゴンの運行開始の影響を見るうえで、乗客数の状況などを可能な範囲で御提供いただけるとありがたい。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケート結果では、主に高齢者がところワゴンを利用している状況だが、電車やバスの時間に合わせて生活していくことが難しい面もあると思われる。これに関連して時間にとられないシェアサイクルが大都市を中心に流行っているが、市としてはどのように考えているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在、市では、シェアサイクルの実証実験を行っている。公共交通</p>

	<p>の手段の一つとしての考えもある一方で、バスやタクシーなどの乗客を奪う結果にもつながりかねないため、関係事業者と協議を行いながら進めていきたい。</p>
委員	<p>目的地へのアクセスの手段として、例えば駅にシェアサイクルを置くことでバスの補完となり得るのか気になる。</p>
事務局	<p>シェアサイクルは、観光の側面が強いが、移動手段が多様化するという視点で検討することができればと考えている。</p>
委員	<p>短期的にみれば高齢者がところワゴンを必要としていることが分かる。長期的に 10 年後は、スマートフォンやインターネットを扱うことができる高齢者が増えるのではないかとと思われる。そのため、長期的な視点に立ち、各種ソフトの活用や整備も必要と考える。</p>
事務局	<p>スマートフォンやインターネットの活用という点について、タクシー業界では、既に配車アプリが導入されており、国においても MasS(マース)というツールの導入推奨をしている。このような先端技術について、DX などの観点もあるため、情報収集をしながら機会があれば取り入れていければと考えている。</p>
会長	<p>その他意見等が特段なければ詳細については次回の協議会で議論していただくということでよろしいでしょうか。</p> <p>(全員了承)</p> <p><b>(2) ところワゴンの進捗状況について</b>  ※資料 2-1 から 2-9 までをもとに説明。</p>
委員	<p>三ヶ島地区におけるところワゴンのルート変更案について、若狭ルートを新設することだが、車両はどのように運用するのか。</p>
事務局	<p>現在、事業者と調整中である。予備車を含め 3 台での運用を予定している。場合によっては 2 台で運用することができるか検討している。</p>
委員	<p>3 台目については、ワゴンが満車時などの不測の事態に備えたもの</p>

	<p>と認識している。安全な運行のための予備車であることを御理解いただいた上で運用することが重要である。10年、20年先を見据えた運用を図っていただきたい。</p>
事務局	<p>現在は、3年間の実証運行中であり、その中で長期的な視点も踏まえ考えていきたい。</p>
会長	<p>柳瀬及び富岡地区の運行開始時期はいつか。</p>
事務局	<p>柳瀬地区は、半導体不足の影響で車両の調達が遅れている。令和4年10月以降の運行開始と記載しているが、今年度中に開始したいところである。富岡地区は、運行ルートが未決定のため、地域と意見交換しながら進めたい。</p>
会長	<p>地域との調整が整ったら、しっかり協議していきたい。事務局において良い案をつくっていただきたい。</p>
	<p><b>(3) その他</b></p>
事務局	<p>次回の協議会は令和4年7月21日(木)午後2時から市庁舎8階大会議室での開催を予定している。</p> <p>以上で議事を終了する。</p> <p>令和4年度第1回所沢市地域公共交通協議会を終了する。</p> <p><b>4 閉会</b></p>